



図書だより

第1号
23・5・29・月

🍷 新入生、図書館デビューしました! 🍷

1年生図書館オリエンテーション後、よく図書館を利用してくれています。

オリエンテーションは図書館利用についての説明を受けた後、館内を見て回り、とりあえず1冊ずつ借りてみるという企画ですが、返却がてら新しい本を借りていく人もかなりいて、最近の若者が読書に戻ってきている手ごたえを感じます。もうすぐ、新着図書も入りますので、これからもちょうくちよくのぞいてみてください。

🍷 2023年「本屋大賞をあてよう」で正解者出ず、来年こそは! 🍷

「本屋大賞」というのは書店員さんの投票で決定する文学賞で、毎年「面白くて感動」する作品が選ばれています。牧高生の人気も高いので、3年前から牧高図書館では、ノミネート全作品を展示し、大賞を予想してもらっています。どの作品も面白く、大賞(1位)作品『汝、星のごとく』を、あてることはできませんでしたが、**今年は、10作品を全て読み、予想してくれた生徒もいました! すごいぞ、来年はピタリ賞だ!**

★「2023年本屋大賞」順位(4月発表)★

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1位 『汝、星のごとく』(風良ゆう) | 6位 『君のクイズ』(小川哲) |
| 2位 『ラブカは静かに弓を持つ』(安壇美緒) | 7位 『方舟』(夕木春央) |
| 3位 『光のところにいてね』(一穂ミチ) | 8位 『宙ごはん』(町田そのこ) |
| 4位 『爆弾』(呉勝浩) | 9位 『川のほとりに立つ者は』(寺地はるな) |
| 5位 『月の立つ林で』(青山美智子) | 10位 『#真相をお話しします』(結城真一郎) |



愛人のもとに通う夫と見送る妻という不思議なシーンで始まる物語、この二人は誰?

その後、瀬戸内の島で、親に振り回され、それでも親を支えねばならない17歳の権と暁海の物語が始まる。二人は惹かれあい、強く深く結ばれる。お互いだけが分かり合える。

権は高校卒業後漫画家を目指し上京し、成功するが、やはり遠距離が二人を引き離す…。

= 「例えば、こんな本は?」その1 (図書の教員より) =



『誰も戦争を教えてくれなかった』 古市 憲寿

若者代表の社会学者コメンテーターとしてテレビ出演しながら、その温度の低さと独特な口調ですっかりおなじみの古市さんだが、最近普通のおじさんになってきちゃったなあ。でも、この本には、古市さんの、そして社会学の「すごさ」が詰まっている。

日本では繰り返してはいけないと、教え込まれた「あの戦争」。しかし、戦勝国アメリカの戦争博物館「アリゾナ・メモリアル」は違った。「爽やか」で「勝利」を祝う楽しい場所、国家のために戦う兵士達を「ヒーロー」と讃える場所だった。

古市は史実そのものではなくて、「戦争の残し方」の違いに心を惹かれた。戦争博物館は決して過去の事物の貯蔵庫ではない。今現在、その国家がどのように戦争を残したいのかが見えてくる生きた「現在」の場だ、という考えのもと、国内はもちろん、中国、韓国、ポーランドのアウシュビッツまで、その目で確かめに行く。観光資源になっているところさえある

そして、一つのある結論に行きつく。「戦争を知らずに、平和な場所で生きてきた僕たちをまず肯定しよう。」僕たちは戦争を知らない。

🍷 今「文豪」が人気?! 「桜桃忌」って知ってますか? 🍷

図書室入り口のボードに、文豪好き1年生の有志(1組田口さん、3組河合さん)が、「桜桃忌」の説明を書いてくれました。「桜桃忌」というのは、小説家太宰治の忌日(6月19日)のことです。正確に言えば、太宰が愛人の山崎富栄と玉川上水に入水し、その遺体が発見された日ですが、彼の39回目の誕生日でもありました。自堕落な生活を続け、薬物依存症で自殺未遂を繰り返す太宰ですが、文学への野心だけは人一倍。その一生や作品は或る意味魅力的で、映画化されたり、桜桃忌には太宰の墓所を今なお多くのファンが訪れたり、人気は衰えを見せません。

『桜桃』というのは、亡くなる直前に執筆した短編小説のタイトルで、太宰自身がモデルと思われる作家とその妻の日常を描いた作品です。重病の妹を見舞う妻のかわりに、3人の幼い子供の面倒を見なければならぬ事態に、主人公はなじみの酒場へとまたも現実逃避。高価な「桜桃(さくらんぼ)」を前に子供の顔が頭に浮かぶのを振り払い、まずそうに口から桜桃の種を出して「子どもより親が大事」と心の中でつぶやいているという、太宰らしいやるせない作品です。

Q 小牧高校の校歌の作詞者も、あの文豪、「佐藤春夫」ですが、太宰治とのあるエピソードが有名です。太宰は佐藤春夫に何をしたのでしょうか?

答えは、図書室入り口のボードにありますヨ!

